

2020年代前半の校内研修や研究は「継承」と「創出」の意識が大切です。

動画で  
視聴できます



## 川の水が

**継承**  
上から下へ  
流れ続ける  
ような

この数年で教員の新規採用者数が増加し、本市では採用5年以内の教師が全体の約33%を占めます。職員室の約3分の1は5年以内に採用された教師。授業には経験を重ねて深まる教材理解や指導技術も必要ですから、全体的な授業力の低下が懸念されています。

ベテラン教師は経験で培った技術を持っています。また、一昔前は互いの実践を厳しく指摘し合うようなスタイルの研修も多かったため、先輩方に熱く厳しい指導を受け、技を磨いた教師も多いです。だからベテランの教師は本市の学校教育の宝であり、脈々と受け継がれるその指導技術は財産です。今、継承の機会を逃すと取り返しがつきません。

時代によって授業のやり方は大きく変化していきますが、子どもと教師の人的な触れ合いが授業に存在する限り、指導技術の価値は下がりません。子どもの関心を高める、ハッとさせる、思考を促す、上手に説明する、整理・構造化して板書する、学びにわくわくさせる技術はどんな授業でも必ず役立ちます。一斉指導でも個別の支援でも発揮できます。

指導技術は無意識で発揮しているものも多いため、説明して人に伝えられるとは限りません。だから、観て学びとる機会が多く必要です。ベテラン教師の授業を若手教師が観て真似ることで感得できます。なぜベテラン教師の授業に子どもが夢中になるのか、導入、展開、指示の語順、間、応答、声量、表情、視線…細部を自分と見比べ、気づき、真似ることが大事です。校内で継承の機会を意識的に仕組んで下さい。

研究授業を組む時間の確保が難しければ、空き時間に10分間だけ観に行く相互参観ウィーク、複数クラスでの合同授業、教室間をMeetでつなぐIT授業…、工夫次第で観て学びとる機会は生み出せます。色んな工夫で財産を継承しましょう。



Key Word

授業力低下の懸念 ベテラン教師は宝 指導技術の継承 「観て学びとる」機会

Society5.0を目前にした今、伝統的な教育モデルからの転換が求められています。授業観、つまり「よい授業」の定義の改革です。昭和、平成の「よい授業」は、共通の「めあて」を立て、教室のみんなまで考えを深め、共通の「まとめ」へと子どもと教師で練り上げていく授業でした。これは令和においても「よい授業」の在り方の1つです。

しかし、令和の授業ではいつも「教室のみんな」とは限りません。オンラインで教室にいない子に授業が届けられたり、国内外の遠くの学校の教室と繋がったりする時代です。「めあて」を個別最適化し、子どもが各自で設定することもあるでしょう。すると当然「まとめ」もそれぞれに異なります。「よい授業」の定義にも多様性が必要です。

こういった授業観の変化は、全ての子どもたちが力を伸ばして予測困難な社会で活躍できたりウェルビーイングを実現できたりすることを目ざせば必然の進化です。自由進度学習、STEAM教育、遠隔地合同授業、異年齢クラス授業、反転学習、プロジェクト型学習など、一つの価値観では語れない多様な授業が国内外で盛んに生み出されています。

本市の子どもや家庭の文化的背景や価値観も多様化していくため、今後の学校や教師は「よい授業」の形を複数もち、子どもの実態に合わせて使い分けたり、創り出したりする必要があります。教師1人の価値観で多様な「よい授業」の創出はできません。だから協力します。教師同士が年齢や経験に関係なくフラットな関係で、互いの異なる授業観や個性を認め合い、誰もが柔軟な発想で挑戦し、応援し合う風土を築きます。そして、過去にうまくいった授業のやり方を繰り返すばかりでなく、校内研修で協力して別のやり方も創り出していきましょう。

**Key Word** 「よい授業」の多様化 協力 挑戦と応援 別の授業のやり方

気泡が集まり  
湧き上がって  
弾けるような **創出**

## Check

- 校内で互いの授業を観て学びとる機会が十分にある
- ベテランから若手へ指導技術を継承できるよう工夫している
- 市外、県外、国外の新しい形の「よい授業」を校内研修で学ぶ機会がある
- 自校の子どもに合わせた「よい授業」を創るために教師が協力できる場がある